

通信小海

彼は死にしましたが

牧師 水草修治



『彼は死にしましたが、その信仰によって、今もなお語っています。』この義人アベルについて告げる聖書のことばが、このたび記念会の司式をさせていただきながら、私の胸のうちに繰り返し響いてきました。」

先日、生前ともに礼拝をささげ、また親しく交わらせていただいた中島末三さんの記念会のあと、筆者は右のようなことを申し上げた。雨上がりの墓前は新緑が目まぶしく、末三さんが住んでいらっしやる天国の輝かしさがしのばれた。「もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともし火の光も太陽の光もいらぬ。彼らは

今月の御言葉

「彼は死にしましたが、その信仰によって、今もなお語っています。」ヘブル十一：四

永遠に王である。」(黙示録二十二：五)。

牧師である筆者にとって末三さんの一番

の思い出は、日曜礼拝のときいつも背筋をまっすぐに伸ばして、顔をこちらに向けて大きな目をおかすと開いて、真剣そのもので聖書の解き明かしに耳を傾けていらした姿である。

特に私たち人間の罪の現実と、それにも勝つてあふれる主イエスの十字架の愛に聖書の話が及ぶときには、末三さんは顔を紅潮させて大きな目から涙を流して聞いておられた。

末三さんは若くしてイエスを救い主と信じてクリスチャンとなり、その人生を神に捧げて新潟の聖書学院に学んで牧師となり、その後、英語教諭となられて後も、その生き方をもって神の愛と真実をあかしして来られた。筆者からすれば、人生においても職務においても大先輩であられるから、少しはそのようなもの言いがあってもよさそうなものだったのだが、ただの一度たりとも末三さん

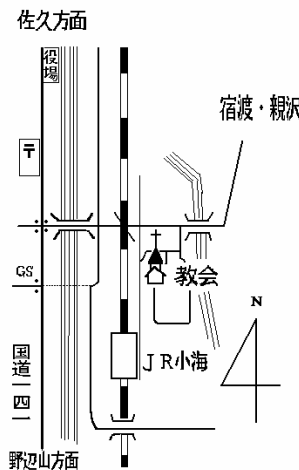
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

千三八四一一二二 二六七九二四七七六

カンパ宛先 振替 005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上・南相木で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的な相談に
も乗ります。

の口から先輩風を吹かせるようなことが
出たことがなかった。

西洋の教師と呼ばれるアウグスティヌ
ス先生のところへ、ある人が来て質問し
た。「私どもにとって一番たいせつな徳と
はなんでしょう。」アウグスティヌは「そ
れは謙遜であることです。」と答えた。質
問者はもう一度たずねた。「では先生。第
二番目にたいせつな徳とはなんでしょ
う。」アウグスティヌは「我々にとって
二番目にたいせつな徳、それは謙遜です。」
質問者はもう一度質問した。「では、先生。
第三番目にたいせつな徳とはなんです
か。」アウグスティヌは「われわれにと
って第三番目に大切な徳、それは謙遜とい
うことです。」と答えたという。

最近の風潮は、どうもその正反対のよう
に思える。あきらかな誤りを指摘されたと
きでさえ、なお開き直って「それでなにが
悪い」とばかりに自分のやり方を押し通す
ほうが人気が出るという危険な風潮であ
る。「イラク戦争の大義名分としたところ
は事実無根だったではないか。」と非難さ
れても、強弁してことを改めようとは決し

てしない。従軍慰安婦問題でも、枝葉末節な
ことから国の関与はなかったといつて言い
逃れをし、アジアと欧米からひんしゆくどこ
ろか怒りを買っている。偉い人々にとっては
ごう慢が美徳なのであるうか。

主イエスは謙遜こそ、神の国の王の資質で
あるとおっしゃった。末三さんは、その信仰
の生き方をもって今も語りつづけておられ
る。「あなたがたの間で偉くなりたいたいと思
う者は、みなに仕える者になりなさい。．．．
わたしが来たのも仕えられるためではなく、
かえって仕えるためであり、また、多くの人
のための、贖いの代価として自分のいのちを
与えるためなのです。」マルコ十章

海尻で家庭集会

六月七日(木)と二十一日(木)午後七時半
井出博彦さん宅で。 96 2534

南相木でも家庭集会

* 六月十五日(金)午後七時半から九時
日向中島悦子さん宅です。近くから遠くか
ら、どなたでも気軽にどうぞ。

信州から野宿者支援



呼びかけに答えて、小海町本間上の匿名の
方が未使用切手を送ってくださいました。あ
りがとうございます。

なお、毎週火曜日山谷地区でおにぎりと味
噌汁を約六百食配っている「ほしの家」のた
め新たな必要品目の募集をいたします。

△募集品目△

焼海苔(味付海苔不可)、梅干、かつおぶ
し、味噌

△送付先△〒384-1302

南佐久郡南牧村大字海ノ口966-15

南牧村社会福祉協議会気付 山谷農場

携帯(090)1436 6334

代表 藤田寛

*恐れ入りますが、着払いによる送付は遠
慮ください。荷札に「木曜午後送付希望」と、
お書きください。

にじり口から入れ

小学生のころ、帰宅すると週に一度くらい玄閑に「お茶に行っています」と母の書き置きがあった。お茶といっても喫茶店ではない。茶道のお稽古である。母の世代は、青春時代を戦時中に過ごしてしまったものだから、その頃身に付けておきたいと思いつながら果たせないで来たことが多かったのだろう。末息子の私が小学校に上がったころから、お茶だとかお花だとか、琴だとかいろいろと手を出していたようである。自分の母親筆者の祖母は茶道の師範でもあったから、なお茶道は修めたいと思ったのだらう。

のである。桜の季節には華やいだ感じのお菓子、夏には涼やかな葛のお菓子だった。正座は苦手だったけれど、それが楽しみで母の稽古場に出かけた。

茶室にはにじり口というものがあつた。通常はその口は使わないのだが、なにか特別なときに使つたようである。にじり口では誰もが頭を下げ小さくならなければ入ることはできない。これは茶道の大成者千利休の工夫によるといふ。天下人である秀吉さえも両刀をはずし、頭を下げてにじり口を通らねばならなかつた。

戦国の世はだれもが「俺が俺が」と他の人より目立とう、ぬきんでようとする下克上の時代だった。秀吉は、そうした競争を勝ち抜いて閑白にまで成り上がったチャンピオンである。黄金の茶室を作つて利休に自慢した。しかし、利休は秀吉に手厚くサポートを受けながらも、茶の世界においてはこの世の一切の虚飾や虚栄を排した「わび茶」を理想とした。それには茶室にどんな工夫をすればよいだらうかと考えた。

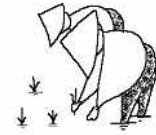
利休が暮していた堺の町は、当時は鎖国以前とあつて、貿易で繁栄をきわめ、多くの

パレン(宣教師)が訪れて南蛮寺つまり教堂が建立されていた。そしてどうやら利休の娘、妻はこの南蛮寺に足しげく通いキリストへの信仰を抱くようになつたらしい。ある日、利休は彼女たちから「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入つて行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」(マタイ七章十三・十四)という聖書のことばを聞いた。利休は「これだ!」とひざを打つた。にじり口の始まりである。

天国に至る門はとても狭い。頭を下げて入らない限り、だれひとり入ることはできない。聖なる神の前では、だれしも一個の罪ある被造物にすぎない。それなのに、自分は神の世話になどならず生きていると思ひあがつていた。ご慢を悔いて「父なる神様、ごめんなさい」とあやまる。そして、「私があなたの罪の罰は十字架で嘗め尽くした。赦してあげよう。」とおっしゃる主イエスを信じることである。

「主イエスの御名を呼び求める者はだれでも救われる」ローマ書十章十三節

子どもとお金



「自分でバイトして稼いだお金なんだから、私が何につかおうと自由じゃん。」こんなセリフを聞いたことはないだろうか。そのとき、どのように返事をしただろうか。

「いや。バイトで得たカネでも何に使うかは自由じゃないよ。君の人生にとっても、家族にとっても、社会にとっても、有益なことに使う責任がある。君にとつて、家族にとつて、社会にとつて有害なことに使つてはいけない。そして、何が有害であるか無害であるかは、まだ未成年者の君には十分には判断することはできない。だから、最終的には親であるわたしが許可するか許可しないかを判断する責任があるんだよ。」

これがまっとうな答えである。未成年者は、親の監督下にあり親の保護の下にあるので、親にしたがう義務がある。もし、「そんなことなら、バイトなんかしないよ。」というならば、それがよい。学生の本分は学問であつて、遊びやバイトはない。

しかし、こんなあたりまえのことが、当たり前でなくなつていらい。「あんだ、化石ですか。そんな正論は今の時代、ぜんぜん通用しませんよ。」とつっこまれそうである。化石かなんだか知らないが、真理はどの時代でも真理であり、偽りはどの時代でも偽りなのである。そして、真理は人を自由にするが、偽りは人にほんのひと時の快楽を与えるが、結局は奴隷にして滅ぼしてしまふ。

こんなあたりまえのことが通用するためには、家庭教育の土台に聖書を据えることが必要である。

第一に、家庭における権威の所在を明確にすること。「子どもたちよ。主にあつて両親にしたがいなさい。これは正しいことだからです。」最終的権威は主(神)にあり、親は神から子に対する権威を委託されている。

第二に、夫と妻の間に愛と秩序があること。「妻たちよ。あなたがたは主にしたが

うように自分の夫にしたがいなさい。・夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」

第三に、こどもに不必要なカネは与えない。小学生ならば学年×百円でよい。ありあまる金銭は有害無益。「金持ちになりたがる人たちは、誘惑と畏と、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することがあらゆる悪の根だからです。」

第四に、幼い頃から、自分の欲しいもののためだけになく、まず神様と困つた人の役に立つためにお金をささげる習慣を身に付けさせる。「困つている人たちに施しをするため、自分の手をもつて正しい仕事をし、骨折つて働きなさい。」

第五に、教育は模範である。親がまず本気で神を愛し隣人を愛せよとおおせになつたキリストにしたがつて生きて見せること。子どものお金の使い方についても、やはり模範を見せることが肝要である。「兄弟たち。私を見習つ者になつてく

ださい。」
親業はたしかに楽ではない。でも神様が親に権威を与えておられる。自信を持って、しっかりとやっつけていきたい。